

登録コード	HM137300	開講年度	2026					
授業題目	予防老年学特論					担当教員	島田 裕之	
英文授業名	Preventive Gerontology					副担当		
単位数	2	講義期間	通年	曜日・時限	集中・不定期	対象学生		
講義室				授業形態	講義	備考		
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素 ⇄					(授業の達成目標)		
	2026HM医学分野初, 2025HM医学分野初, 2024HM医学分野初, 2023HM医学分野初							
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能					⇄	健康寿命を阻害する主たる要因であるフレイルと認知症に関して、最新の研究成果を理解し、具体的な対処方法に関する知識を身につける。	
	【専攻】医学・保健学研究の専門分野近傍の課題に対して新たな知見・技術を生み出す応用力					⇄	事例検討を行うためには、能動的な学習が必須となり、これを通して新たな知見を発見する技術と事例を洞察する応用力を身につける。	
(2)詳細 /Detailed information								
(3)授業の概要 /Overview of course	加齢にともなって多様な器官が脆弱性を増し、心身の虚弱が進展した結果として要介護状態に陥る。本講義では、加齢にともなう虚弱（フレイル）や認知症に焦点をあてて、その予防、診断、対処方法について幅広い知識を習得するとともに、これらの知識を保健活動や臨床実践に役立てる事のできる能力を身につけることを目指す。 フレイルと認知症に関する病態や危険因子について学び、その予防方法についての実践方法を習得する。また、受講生各自が最新の研究事例を調査して資料を取りまとめ、その解説と議論を通じて理解を深める。							
(4)授業計画 /Course plan	(3) 授業計画 第1回：老年学についての概論 第2回：予防医学についての概論 第3回：フレイルについての概論 第4回：認知症についての概論 第5回：フレイルについての事例検討（予防） 第6回：フレイルについての事例検討（診断） 第7回：フレイルについての事例検討（治療） 第8回：フレイルについての事例検討（ケア） 第9回：認知症についての事例検討（予防） 第10回：認知症についての事例検討（診断） 第11回：認知症についての事例検討（治療） 第12回：認知症についての事例検討（ケア） 第13回：フレイル対策についての総合議論 第14回：認知症対策についての総合議論 第15回：高齢者の健康寿命延伸についての総合議論 課題提出：15回の授業終了後1か月以内に提出 研究事例は英語論文を検索して、その内容についてパワーポイント資料を作成して報告してもらいます。報告は単なる研究紹介ではなく、その研究のどこに新規性があり、何が限界かを明確に示してもらいます。							
(5)成績評価の方法・基準 /Grading/evaluation method/evaluation criteria	成績評価の方法 1) 自律的な知識獲得を実現する手法について評価する。 発表資料（2割）、プレゼンテーション（2割）、討論（3割）で成績評価する。 2) 授業の理解度と応用力の達成度を評価する。 課題提出（3割） 成績評価の基準 発表資料、プレゼンテーション、討論、課題提出における総合評価が90-100点(秀)、80-89点(優)、70-79点(良)、60-69点(可)、60点未満(不可)とする。 評価の視点は、(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できることとする。							
(6)履修上の注意 ・事前事後学習 の内容・テキスト・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/ Reference work(s)	履修上の注意 質問や相談はメール（shimada@ncgg.go.jp）もしくは授業終了後に受け付ける。授業の形式は講義と能動的自己学習、プレゼンテーションおよび討論を組み合わせた授業形式をとる。自己学習をどれだけするかが評価につながる形式となっている。 事前・事後学習に関する情報 授業の事前に指定した教科書を熟読し、その内容を理解する。事後にはレポートを提出する。レポートの分量の指定はしれないが、成績評価の基準の視点を満たすことが要求される。							

(6)履修上の注意 ・事前事後学習 の内容・テキスト・教材・参考 書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/ Reference work(s)	教科書：運動による脳の制御 参考図書：高齢者理学療法学
(7)質問,相談への 対応/Questions and requests for advice	質問や相談はメール（shimada@ncgg.go.jp）もしくは授業終了後に受け付ける。
(8)授業の形式 /Course format	講義と能動的自己学習，プレゼンテーションおよび討論を組み合わせた授業形式をとる。 自己学習をどれだけするかが評価につながる形式となっている。